

第3回次世代半導体調査特別委員会

- 1 日 時 令和6年2月26日(月)午後4時32分～午後5時22分
 - 2 場 所 総合庁舎議場
 - 3 事 件
 - (1) ラピダスの計画概要について(確認)
 - (2) 安平川の取水場所からラピダスまでの送水ルートについて
 - (3) 電力の電源とラピダスまでの送電ルートについて
 - (4) 北海道との連絡体制及び庁内の連絡体制、会議等の開催状況について
 - (5) 関連企業及び移住定住の問い合わせの状況について
 - (6) 関連企業の受け入れ可能な町有地、町内工業団地及び工場適地について
 - (7) 苫小牧東部地域遠浅地区の現状と安平町周辺地域における関連企業の立地計画について
 - (8) 関連企業を含めた移住・定住対策としての空き家及び空き地の現状について
 - 4 出席委員 米川委員長、工藤秀一副委員長、小笠原委員、鳥越委員、工藤隆男委員、三浦委員、箱崎委員、内藤委員、高山委員、梅森委員
 - 5 欠席委員 田村委員
 - 6 委員外出席 多田議長
 - 7 事務局 木林局長、石塚補佐
-

会議の経過

◎ 委員長あいさつ

- 米川委員長 それでは田村議員が欠席されておりますが定数に達しておりますので只今から第3回次世代半導体調査特別委員会を開催します。私から一言ご挨拶申し上げます。研修に行かせていただきました菊陽町の第1工場が稼働することになりまして1週間ほど前もテレビに相当な期待感を持って地域が発達するだろうと報道されていましたが、ここ千歳に建設されますラピダスの関係でも私たちこの町にとっては期待をしたいなという思

いでこの半導体の事業についての認識を深めて参りたいと思います。

◎ 事件（内容）

○米川委員長 それでは本題に移ります。ラピダスにかかる情報共有について本日は千歳市に建設中のラピダスの情報共有を目的に参集いただきました。ご多忙の中、町長、副町長、政策推進課長にご出席を賜り、また、政策推進課長におかれましては資料を用意していただき感謝申し上げます。本日の進め方ですが、調査項目の（１）から（８）まで一括して説明していただいた後に質問を行いたいと思いますがよろしいですか。

○一同 はい。

○米川委員長 それではそのように進めさせていただきます。それでは資料の説明をお願いします。

○渡邊政策推進課長 はい。

○米川委員長 政策推進課長。

○渡邊政策推進課長 本日はよろしく申し上げます。それでは政策推進課から説明をさせていただきたいと思います。まずお手元の資料になりますが次第ということでレジュメ合わせまして政策推進課の私の方でご用意させていただいた本日の資料となっています。３番目の事件８項目ご報告いただいているのですが、私の方で作成させていただいた資料アジェンダに基づきながら一旦整理させていただきながら項目に沿った内容についても少し触れさせていただければと考えていますのでよろしく申し上げます。それでは説明に入らせていただきます。昨年２月２８日にラピダスが北海道千歳市に進出する情報が流れまして、明後日で約１年が経過しようとしています。国家プロジェクトでもありラピダスという情報はなかなか私たちや議員の皆様が必要とする情報が都度オープンに新聞やテレビでオープンになった情報しか見聞きすることができない、これが現状であります。本日は議会において設置した次世代半導体調査特別委員会ということで現在様々な情報については私の方でも新聞やインターネット、北海道のホームページで情報開示されている情報がメインですので、質問に対してお答えでき

る範囲も狭いと思いますのでその辺もご理解ご了解いただきながらお願いしたいと考えています。本日の会議資料は私の方で調べた範囲、委員会の皆様と情報共有する意味合いでのものとなっています。それでは本日はアジェンダに沿って説明させていただきたいと思いますのでよろしくお願いしたいと思います。まず、ラピダスの計画概要ということで説明させていただきます。一枚お開きいただきまして、1-1ラピダスの計画概要についてというところになりますが、主に青いところ中心に順に説明させていただきたいと思っています。このラピダスについては次世代半導体の国産化を目指すラピダス社が昨年2月28日に千歳に進出を決めたところです。研究開発から量産まで約5兆円程度の投資を見込み、2025年に試作ラインの立ち上げ、2027年を目途に量産化を目指す計画になっています。量産段階では少なくとも技術者約500人から600人の雇用。工場働く人は1000人規模になる可能性があると言われてるところです。新工場は千歳市の工業団地千歳美々ワールドで4月以降に着工しまして敷地面積128ha。自動車の自動運転や人工知能AIなどに使われる次世代半導体を生産する工場です。こちらの半導体については2nm。ナノは10億分の1の半導体の量産を目指していくということです。今回ラピダスの社長である小池様の方が千歳市を選んだ理由ということで再生可能エネルギーが豊富にある。また、水の確保も容易であるところが今回の進出のポイントであると言われております。また、北海道においては自然に恵まれ、世界から技術者を招ける環境もある。そうした環境下の中でこの事業を進めていく流れになっています。もともと日本はかつて世界をリードした半導体産業の大国でしたが、現在は台湾を中心としながらシェアが10%に落ち込んでいるといった状況を反転するためにもこの事業がスタートされたとお聞きしています。この事業に対してはトヨタ自動車など国内主要の8社が出資する中でこの事業が展開されていくことになっています。これがラピダスの計画概要についての大きな流れとなっています。

続きましてラピダス計画の概要2番目になりますが、経済効果ということになります。こちらにも既に報道関係、北海道新聞も含めた情報ということになるのですが、この下については下の2つ目に書かれていますが、一般社団法人北海道新産業創造機構のとりまとめデータと言われまして、ANICと言われている組織の方で試算をした内容となっています。これは一定の前提条件のもとで作っている試算ではありますが、条件が変われば内容も当然変わってきますし、なかなかこの試算を出すというのは北海道でも大変だということにして、いくつかの仮設というか前提条件を持ちながら作った資料と

いうことでお聞きしています。経済効果ということで2つのシナリオで分かれています。①、②ということで今ラピダスが製造する工場、これがまずIIM-1という工場を建設しているところです。シナリオ2の方になります。IIM-1、IIM-2、これが量産の試験棟と量産棟を合わせた形の中でのシナリオとなっています。ここで注目していただきたいところは、私どもの町でどういうふうこれからアプローチに関わっていくかというところで、赤字で朱書きのところシナリオ1、シナリオ2の関係産業含む従業員数のところになります。シナリオ1では約1600人、シナリオ2になりますと3600人。こちらは従業員を見込んでいる人数となりますので、家族の方を含めると単純に3ぐらいを掛けると1万人ぐらいの規模、これが今のところ言われている中ではこの周辺の中に居住されるのではないかとされている数字です。その中の一番下のところの上段のところの下、従業員のうち新たに住宅建築を必要とする割合が約7割となっていますので、こうしたところを私どもの安平町でも移住定住としてどう展開していくのかこの後考えていかなければならないのかなと思っています。もう1つ下の段になりますが、ここでチェックしていただきたいところが投資効果のところの住宅整備というところになります。こうした従業員の住宅需要を見込みながら試算として出しているのがシナリオ1ですと356億円、シナリオ2ですと806億円という経済効果が見込まれています。こうした数字を見ながら今安平町は第2期の後期計画の進行中ですが、3期に向けてこういう指数を持ちながらこれからの動きをしっかりと捕まえながら2期でどういったところを目指していくのか含めて考えながら3期に盛り込んでいきたいということで現在色々な情報を収集しているところです。ちなみに昨年9月の時に議会の皆様に予算の方でもご承認いただきました土地利用なんかもこれをこのラピダスを受け止めるためにどういったような安平町の土地利用を考えていくか。そういったところを今最後の段階になっていますが、今作業を進めているところですし、土地利用計画の中も立地適正化計画、都市マス計画、こうしたところともリンクしながら検討していきたい。そう考えているところです。

続きましてラピダス計画についてということでスケジュールになります。表の中で一番上の段、マイルストーンというところなのですが8月から9月ということで新築の着工がスタートしてしまっていて、ポイントということで赤い矢印で示しているところがあります。これ工場棟に入るのですが地上の躯体工事ということですので本格的工事が進められています。相当数なクレーン車も来まして徐々に工場の形が見えるようになってきているのかなと思

つつあります。これが令和6年の大体12月ぐらいまで進んでいくことで見ておりましたが、この辺までが工事にかかるピーク人口となっています。その後一番右側にあります2025年ということでライン稼働開始というのは概ね4月ぐらい。ここが2025年のスタートということでまずはここに抜けた作業ではあるのですが、私ども安平町が目指す場面としてはこの2つ目のIIM-2である2027年というのが1つ大きなポイントになってこよやかなとは感じているところです。

続きまして1-4に入らせていただきますが、この建設事業が進められるラピダスと安平町の関係性ということでまずは位置関係、私が説明するまでもないのですが、ここの美々ワールドというところまでの利便性のところがやはり他の自治体よりもすごく優れているのではないかと認識しているところでして、最短で行けますここ今16分と書いてあるものが地図にあるのですが北町辺りで考えますともっと短く10分ぐらいで着くのではないかなと思っています。一番遠い追分地区でも約30分。JRも稼働しているということで従業員の方たちの通勤圏になってくる。そういった優位性のある工場圏の土地だということです。お開きしまして次のページこれも同様になるのですが、4地区ポイントを置かせていただきましてkm数、大体工場圏の中で追分地区、安平地区、早来地区、遠浅地区という土地があります。こうした土地条件の良い安平町の中でどのようなアプローチしていくかを色々と知恵をお借りしながら皆様方のお声または企業様のニーズを確認しながらこれから作業を進めていくということとなっています。

続きまして1-5になります。これ(3)のところの説明とも重なってくるかなと思うのですが、北電による電力供給ルートということになります。電力の供給については、ここ安平町に位置します南早来変電所から供給されることが既に決まっています。新聞などで報道されている需要量ということで約60万kwと言われていまして、道内全体の電気需要の1割から2割規模がラピダスに供給されるということで今言われていまして、北海道電力の南早来変電所の方からも供給する遠浅地区から今安平町内の系統ルートについて調査検討しているということで北海道電力様の方から情報をいただいているところで、現時点ではルートマップとかそういった詳細情報はないのですが、この後ルートも決まってきた段階で議員の皆様と情報共有できるような内容となりましたら共有させていただければと考えています。

続きましてこちらは事案になります(2)の説明と重複する形になりますが、ラピダスの工業用水ルートということで、このルートの取水口が安平川ということで安平の名前が良く出てくる場面があったのかなと思っています。

す。工業用ルートについては苫小牧工業用水企業局第2施設から新設で約22.2km。令和5年度から5か年計画で整備費用については192.8億円ということでこちらも新設経路の一部が安平町内の土地を經由して工業用水がラピダス側に供給する予定とお聞きしているところです。

続きまして(4)になるのですが、北海道などとの連携関係ということでこういった組織体制、連携体制のイメージを持ってラピダスを迎えていくとかサポートしていく体制が出来ている表としてお示しをいただいているものとなっています。現在体制図になるのですが進出表明をラピダスが一番上になりまして、そこを国、北海道、千歳市が連携した組織、北海道次世代半導体産業立地推進本部、こちらを立ち上げましてその下に自治体連携なども含む北海道企業誘致推進会議を設けまして情報共有体制を構築しているところです。この他にも先ほどお話をさせていただきましたANIC、これは道経連を中心に組織が組まれているもの。安平町については自治体間の連携ということで東胆振定住自立圏1市4町になりますが、そういった中であと千歳、苫小牧拠点都市地域整備推進協議会。こうした自治体の中での連携組織も組みながらこのラピダス関連の情報共有ですとか情報交換なんかも進めているところです。

続きましてラピダスにかかる安平町の対応についてになりますが、先ほど体制図については説明をさせていただいたところの2枚目になるのですが、組織体制図についてはこういった体制になっています。(2)会議の開催状況というところですが、北海道次世代半導体産業立地推進本部会を令和5年3月8日、これが第1回目の本部会議ということで立ち上げまして、都度会議を進めている流れとなっています。会議関係の議事録も北海道のホームページも議事録としてご覧になるようなことできるのですが、主に情報共有というところが強いものですから、具体的にはなかなか見えきれない場面もあるのですが、徐々にこうした会議を重ねながらラピダスというもの、また、関係する企業がどんどん見えてくるようになってくるのかなと思っています。

続きましてラピダスにかかる安平町の対応ということで先ほどまではラピダスを頂点としながら国、道、千歳市周辺自治体なんかも連携した組織体制を組んでいるのですが、内部的にはどのような形で構成されているのかというところではあるのですがやはり昨年5月22日以降情報が北海道新聞だったり北海道庁さんのホームページからでないとなかなか入手ができないところでして、私ども情報共有ということでラインワークスを活用させていただいていますので、一旦はチームラピダスという名前を付けさせていただ

きながら関連部署にラインワークスのグループラインの中に入っていたきながら都度情報を共有していく作業を中心としているところです。それと並行して現実的に具体的な案になってきた時にどういう組織体制図で考えていったらいいのかもこれも今私段階というか私案という事務局の素案段階ではあるのですが3つで構成しています。土地利用、インフラ、あと移住定住、企業誘致、教育環境、共生社会、こういった3つの考えと今環境部会ゼロカーボン推進協議会を立ち上げて1月にゼロカーボン宣言もやりました。環境の取り組みというのはこのラピダスにおいても相当なウエイトを占めていくこともありますし、この後少し説明させていただくのですが、安平町での企業からの問い合わせの中でも太陽光だったり蓄電といったお話もいただいているところもあるものですから、今4部会にするか3部会にするかしっかりとこの組織を立ち上げるまでの間に議論しながら併行しながらすぐ動ける体制図ものを内部的にはこういった形で用意しながらいつでも動ける準備だけはしていることになっています。あと最後の資料ページになりますが2024年2月6日段階でこういった問い合わせがあるかというところになりますが、今宅地など住まい関係ということで10件ぐらいこの後出てくるかもしれないですが、1回とりまとめたのが2月6日段階で10件ということで民間賃貸住宅の建設検討、北進町有地の宅地造成の検討、東胆振周辺の土地の情報収集、投資目的での賃貸住宅の検討、こういった問い合わせが政策推進課の方に届いているところです。あと工業団地、工業関係ということで6件ほどプラス再エネ関係ということで半導体産業の工業実績のある会社様の方からも情報収集ということで問い合わせをいただいているところです。あと工業団地の情報収集ということで幾度かご質問いただいた中で安平町としても工業団地がない中で苫東の3期計画に合わせながら遠浅地区の早期完売を目指していこうということでそうした半面やはり安平町水の問題もあるのでそういったお話も一部させていただいているところです。先ほどもご説明させていただきました再生エネルギーの検討ということでここ今数的には太陽光蓄電設備も合わせながら結構な数が出てきているのかなと思っています。ただ、一方北海道電力への系統できる容量が相当狭いものですからお問い合わせは企業様の方からいただくのですがここが現実性が出ていくのかどうなのかというところはこの後協議なのかなと思っていますが、安平町としてはこういった事業が来ることで固定資産税だったり人の試算でもありましたけど、人が移住定住していただくことでまちづくりとして大きく発展していく可能性があるような取り組みを進めていけるなということでお問い合わせいただいている企業様に対しては一案

件一案件調整しながら対応させていただいているというところですが、この間のアプローチになります。今鹿島建設様の方にも町の状況の情報をすでに出させていただいていますし、北海道銀行様の方としては包括連携協定を組ませていただきまして住まいの確保といった取り組みもしています。道庁については市町村ネットワークですね。北海道次世代半導体産業立地推進連携会議市町村ネットワークの中にも加えさせていただきまして、都度こういった半導体関連のものに対して情報交換をしながら連携しながらオール北海道として取り組んでいけるよう進めているところが現状安平町での取り組みとなっています。今大きなところでいくと1番から6番目ぐらいの話を見せていただいて、7番目に苫東関連とか安平町周辺地域における関連企業の立地計画というお話でいただきました。これも報道関係でご覧になっている場所なのかなということですが、苫東地区になりますソフトバンクのデータセンター、これが約電気消費量30メガぐらいと言われているのですが、2027年稼働に向けて今準備を進めているところです。私の町も苫東安平ソーラーパークフェイズ1、フェイズ2を有してソフトバンク様とは連携を組んでいる企業様ですので、この後もそういった情報交換、情報共有なんかをさせていただきながら連携とれるものについては安平町としても積極的な誘致活動もできればと考えています。こういった次世代半導体の事業をやる時にソフトバンクさんより先に表明をしたエア・ウォーターさん。これ特殊ガスとかケミカル半導体の材料を輸送するというところでこちらの方が早く立地表明されたのかなと思っています。主にこういった事業が他の半導体の会社より輸送関係ですとか苫小牧の方にも輸送関連の企業さんなんかは熊本TSMCで事業を展開された企業様なんかは今すでに苫小牧の沼ノ端地区の土地も購入しているという情報なんかは共有いただく場面もありまして、徐々に動いていくところなのかなと。あと大きな事業でいきますとこれはベルギーの会社なのですがIMECという半導体の研究所などが北海道に来る。こういった報道もされておりましたなかなか見えないラピダスではあるのですが、徐々に見える化されてきているような状況なのかなと思っています。私ども先ほどから何度かお話をさせていただきました1番は働く方の住まいを中心にしながらですので、現時点では教育を柱にしながら問い合わせが相当数来ているところまずは進めさせていただいています。ここは北海道銀行様と常口アトム様と連携協定を結ばせていただいた中で住まいの確保とあとは後年ラピダス需要へ受け止めるための色々な企業様の先ほどの投資交換の中でも説明させていただいたのですが、そういったとりあえずIIM-1が350億円ぐらい。これを民間通してどう確保していけるのか。

事業化をやっていただけるのか。そういったところを1つ主眼に置きながら現在いただいている問い合わせに対して私ども一同で対応させていただいている。こちらが今今回委員会の中で私どもの方から委員の皆様へ情報共有として説明させていただく内容となっております。以上です。

○米川委員長 ありがとうございます。説明が終わりましたので質疑を行います。質疑はありませんか。ページ数に限らないで全体的なことで質問があればお答えをお願いしようと思います。

○工藤秀委員 はい。

○米川委員長 はい。工藤委員。

○工藤秀委員 まず3点ぐらい質問ですが、ラピダス関係、半導体を作る工程の中で水を大量に使うというのは関連会社にはなくて、ラピダス本体の半導体を作る前工程が水を大量に使う工程だと思うのですが、その他の関連会社でいうと設備環境を作る会社が主なものなのかなと思いますので、それって水は普通の一般的な水の使い方しかないのかなと思っているのですが、その辺のところ調査しているのであれば教えてください。あともう1点はラピダスの工場が今作っていて、そこに入って行くには国道からアンダーパスをくぐって右折して入っていくようなコース。そこ一本なのかなと思っているのですが、他に何か出入口の情報があれば教えていただきたいなと思います。たぶんそれだけだと科学技術大学とエプソンとか入っていくところなので、通勤時間帯ってすごく渋滞したりして一本じゃ無理なのかなという気がしているので、その辺何か情報があれば教えてください。

○渡邊政策推進課長 はい。

○米川委員長 はい。お願いします。

○渡邊政策推進課長 まず1つ目の企業進出に伴って水というところなのですが、実際今ラピダスに向けてどういうところがアプローチとしてくるのかまだ見え兼ねているところかなと思っています。安平町に1つ課題がこれから移住定住というところで策を打っていかうと考えているのですが、生

活用の水道と言いますか水を試算しているところです。これは各エリアごとでやっていくところと震災後に追分地区と早来を結ばせていただきながら水の確保に向けてはこの間も色々やっていたのですが、やはり夏場になると相当水が不足するという安平町の課題もありまして、どこまで水を必要とされている企業様に対してアプローチするよりもお話をいただくケースが少し増えてきているのかなと思っていますので、そういった企業様の需要に応じて関係する水道課だったり、そういうところとまずは調整していく必要があるのかなと思っています。安平町の場合はその需要よりラピダスに直接的に電力を送りたい企業様の方にこれ今北海道電力の方で確保しているのはラピダスだけの需要電力なのですね。それを南早来変電所から送り届けるところまでしか話はなっていないというところで、今周辺いくつかの企業様が千歳の山林とかで計画しているという相談やお話なんかもいただきます。ただ一方、2メガ以上の電気量になると高压線に結ばなければならないという大きな問題もあって、個々に容量があるかないかまで今お話をいただいている確認作業を担当の方でしているのかなとは思っているのですが、今企業のラピダス関連の需要ということで私どもにお話している主なものは蓄電と再生可能エネルギーが1つ大きなところなのかなと。その他にもいくつかはあるのですが、まだしっかりと説明をできる内容にまで固まっていない事業なんかはきちんと説明する段階でご説明させていただきたいなと思っています。あと工場に向かう道路については今のところ私どもも報道関係の情報しかないのと、ただ、ラピダスの科学技術大学側から向かっていく方と国道から折れて入っていく2つは道路としてはまずあるのだろうなと思っています。細い道なのでここをどう整備していくのか。今回の電力もまだルート調整中なものですから、このルートがどういうふうになっていくのかでもしかすると道路整備なのか。あと工業用水も最終的に決まった段階で何かしら道なのか、基本的には道路にされていくとか新たに開発するよりはそういった方法を考えていくのが主流なのかなと思っていますので、その際にもう少し道路ができてくる要素があるのかなとは思っていますが今のところは報道だけの情報しかないというところになっています。

○米川委員長 他にありませんか。

○梅森委員 はい。

○米川委員長 梅森委員。

○梅森委員 一部被るところがあるのですが、私以前質問しましたが、必要に九州の熊本の様子を見ていると国の補助金が七千何百億だとか1兆円ぐらいのさらに追加支援しますということがよく出ています。羨ましいなと思って聞いているのですが、このラピダスに関しても前の経産省大臣西村さんだとか現在の大臣も周辺自治体に対する支援はどんどんするので積極的に取り組んでほしいんだという報道が新聞等に出ています。具体的にいうとインフラ整備の件で言えば今工藤さんも言ったように道路、例えば道道鶴川千歳線ですか、こういうところを2車線化するとか、あるいは水の関係、水利権の問題があるのでしょうか人口増に対して浄水場の設置その他するのであればそういうものについても支援しますよって具体的にそういうことを挙げて言ってくれているのですよね。それに対して安平町としてはどういうコンタクトを取っていかようとしているのか。取り組みをこれから先のことで申し訳ないけれどもどのように考えているのか教えてください。

○渡邊政策推進課長 はい。

○米川委員長 はい、課長。

○渡邊政策推進課長 先ほども若干説明の中で触れさせていただいたのですが、1市4町の広域を組んでいる中でもすでに議論というかお話の話題には出てきていますし、今後期成会とかの要望の中に当然組み込ませていただきながらいけるのではないかなと思っています。また、千歳苦小牧の拠点これ今の計画でいくとラピダスの計画を含ませていなかったものですから、昨年会議の中で自分の方で発言させていただきながら計画の見直しと言いますか、やはりそういったところも必要になってくるのではないかといいところなんかは私の方から色々ご提起させていきながらそういったものが新しい要望につながっていきながら国、道に上がっていく流れが1つ作ればいいなと思っています。一方、安平町で見ますと我々の今チームラピダスの中も含めて今安平町の中で以前ご質問、工藤議員からもご質問いただいた旧開発ができなかった土地なんかもラピダスにつながる道ということで自衛隊の前もそうですし、先ほどの鶴川線もそうです。酪農1号線、2号線なんかもそうですし、計画も進んでいます国道4車線の話といった

ものもしっかりこのラピダスというところを捉えながら今までの合併前からの中で消えていった中で検討の中でなかなかできなかったのではないかとこの路線もすでに調べ上げてはあります。これは建設課と連携しながらすでに道路のピックアップなんかもしていますので然るべきものに対応できるように準備は体制としては整えているところです。あと千歳方面との連携になりますと 337 号線の上に広域の道路といったものがしっかり高速道路と接道することで十勝圏への連携、これ今国の方でも調査表なんかが出ているところが一部あって重要性も一方では検討しているところがあるのかなと思っていますのでそこを周辺自治体でどうやって連携を組みながらインフラというのはすごく大きく占めていくところもあり色々な調査案件とか調査資料もすでに建設課の連携の中ではこちらで押さえさせていただいていますので、ただ、水利権だけはなかなか難しい所もあるのですが、そうは言いながら私どもの町としてはこの水の問題を解決することによって大きく発展していく町だと思っていますのでこの辺は関係する皆様方と連携しながら取り組んでいければなと事務方の調整としてはそういうことをやっています。

○及川町長 はい。

○米川委員長 町長。

○及川町長 先ほどの資料の中にも定住自立圏ということで1市4町ここが要望していく中で中心になってくるのではないかなと思っていますし、当然札幌要望と中央要望もあるわけです。この間事務レベルで来年度以降のその期成会の要望書の内容だとかとりまとめをしている最中でして、その中で水の問題だとか当然苫小牧単独でも動いているでしょうし、そういったところに安平町も乗っかっていく。それが安平町だけでなく1市4町として全体的に水の問題だったり工場の場所の問題だったり移住の宅地の問題だったりそういったものをもうちよっと大きな問題をラピダス関連で取りまとめながら要望できれば札幌、道であったり、中央にも訴えやすいのではないかなと思っています。そういった中で我々はずっと課題になってきた道道の問題だったり、先ほども話が出ていたようななかなか町単独では動かしにくかったところもこれを契機に上の方に要望していければいいなと基本的に考えています。あと大きな話の動きの中でこれは本議会であればなかなか説明できる段階では当然情報提供できる段階ではないのですが、

実際先月千葉の方に視察私と渡邊課長で行ってきたのは学校の外国人の方が当然これからラピダス周辺には出てくると。そうなってくるとインターナショナルスクールという整備のお話も来ていますのでそういったところも実現に向けて動いていきたいなと思っています。そういったものは公に出せる段階になれば前段でこういった機会でご説明させていただければと思っています。

○米川委員長 他にありませんか。

○内藤委員 はい。

○米川委員長 内藤委員。

○内藤委員 確かラピダスは再生可能エネルギーでしたっけ。北電のこの電力を使うと書いていたのですが、電線を通していく電気にそういうこれはこの電力とか何か使い分けみたいなのはあるのでしょうかね。今ここ南早来変電所から送るということが決まっていたというけど、じゃあ電力ってそれは太陽光発電で発電しましたとか、そういうふうな確か工場はそういう話で始まっていたと思うのですがそのところはどうなのでしょう。

○渡邊政策推進課長 はい。

○米川委員長 政策推進課長。

○渡邊政策推進課長 先ほどご説明させていただいたところになるのですが、60メガですか。これはラピダスと北海道電力様の方で話になった。これがただまだ言われている段階なので私も北海道電力ではないので何とも言えないのですが、報道の中ではそのぐらいの電力を今の工場の中で見込んであるものを用意する。そのベースが南早来変電所だということだけです。今その需要と合わせながらきている企業様がもしラピダスに持っていくとすれば、ちょっと断言はできないのですが今高压電線って相当もともと東日本大震災の後から北海道は太陽光発電というものに相当取り組まれてきていて、今までも消えている計画もたくさんあるというのはなぜかというところに容量がないからなので、その容量が北海道電力としてどう確保していくのかという課題ができれば太陽光発電をそのまま持っていくこと

もできるでしょうし、企業として採算性が合うという位置に土地を取得できるとすれば企業側の方から従前は高压線に持って行くまでの柱ってというのは企業さんが用意しなければならないので、そういったものをしっかりと用意できるという場所に計画が企業様の方であれば直接的に送り込む。加えて蓄電というシステムを間に入れて電気の揺らぎを落とさないような形でやっていく方法はあるのかなと思ってはいるのですが、直接的に私が見ている情報とかインターネットとかで見ている情報の中では直接的な入れ込み方はないのかなとは思ってはいるのですが問い合わせとしてはそういうものはきているという状況なのは確かなことです。以上です。

○米川委員長 他にありませんか。ないようですので質疑がなければ説明員の皆様には退場していただきますけれどもよろしいですか。

○一同 はい。

○米川委員長 じゃあ町長、副町長、推進課長どうもありがとうございました。ここで暫時休憩します。

(暫時休憩)
(理事者側退出)

○米川委員長 それでは再開します。只今町から説明を受けましたが委員会として町に要望しておくことなどがあるかどうか。それから今後の進め方についてのご意見もいただきたいと思います。町への要望などがあれば次回に要望事項を整理したいと思いますが要望がなければ少し時間をおいて案件があれば適宜特別委員会を開催したいと考えています。以上のことからしていかがでしょうか。まず何か要望はありませんか。

○工藤秀委員 はい。

○米川委員長 工藤委員。

○工藤秀委員 要望というか先ほど質問した中でラピダスの入口って今一つし

かなくて、そっち側って色々な車が入っていくので出来れば富岡側にもう1か所入口ができたなら安平町としては通いやすいし苦東なんかもそっち側から来た方が物流関係も非常にスムーズになるのかなという意味も含めて入口を富岡側にできてもらえれば非常にありがたいのかなという気はしていますけどその辺どうでしょうかね。

○米川委員長 すみません。事務局の方で説明していただきます。

○木林局長 自分も現地に行っていないのですが、グーグルで見える限りでは科学技術大学の方から来る道路とその反対から来る駒里の方から入る道路があるのですよね。たぶんそれがつながっているのではないかと思うので、ルートは2つあると思うのですよね。あと新聞に出ていたとおり国道36号から跨いで市道の跨線橋を作るという話をしているので、ですからルートの的には3ルートになるのかなと思うのですよね。公表されているのはそういうことです。

○工藤秀委員 はい。わかりました。ありがとうございます。

○米川委員長 他にありませんか。それでは今後の進め方についてはどうしましょうか。

○高山委員 はい。

○米川委員長 高山委員。

○高山委員 新たな情報が入らないと何も僕らも進みませんので、情報が流れて何か動きがあれば開催すればいいのではないかと思います。今の段階では会議のしようがないので進めようがないと思うのですがいかがですか。

○米川委員長 今高山委員からそのような意見がありましたけど事務局の方では町の動きが全部わかると思いますので事務局に教えていただいた上で町の動きがあれば特別委員会を開いて私たちが説明を求めるというそういう方向でよろしいですか。いいですか。

それでは反対の意見がなかったなのでその方向で今後は進めていくことにします。それでこの時期も内容についても町との絡みがありますので事務

局の方と相談して改めて皆様方にまた議長とも相談して皆様方にお知らせしたいと思います。いいですか。事務局からご説明があります。

○**木林局長** 1件、その他なのですが、この特別委員会の会議録だったのです。町のホームページで基本は全部公開しているのですがそこに載せるか載せないかということで、積極的に町のホームページで開示していくかどうかというところのご相談です。特段問題なければ他の会議と同じように町のホームページで公開していきますがそれでよろしいですか。町の方の説明も公表できないところはしていないと思いますので、そういうことで町のホームページに出すということでよろしいですか。わかりました。

○**米川委員長** 事務局よろしくお願ひします。それでは以上をもって次世代半導体調査特別委員会を閉じます。大変ご苦勞様でした。

○**一同** ご苦勞様でした。

閉会 午後5時22分

会議の経過を記載してその相違ない事を証するため、安平町議会委員会条例第26条の規定に基づき、ここに記名押印する。

令和 年 月 日

次世代半導体調査特別委員会委員長